



令和3年11月30日(火)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 河崎 晃二

# 開四小だより

## 12月号

### 4月からの成長を感じて

副校長 中村 明子

10月30日の音楽会には、たくさんの保護者の皆様に御参観いただき、ありがとうございました。10月から児童は練習を積み重ね、自分のパートの練習に一生懸命に取り組んで、学年全体で美しい音色を創り、楽しんで発表していました。コロナ禍ということで、例年と違う方法での開催となりましたが、温かい保護者の皆様の御声援は子供たちの励みとなりました。今回は、練馬区のガイドラインに則り、1名の保護者の方の参観となり、ご不便をおかけしましたが、御理解・御協力をいただきありがとうございました。会の運営や文化的行事の在り方につきましては、コロナウイルス防止の観点や今後の感染状況を見ながら、今後更に考えていきます。

東京でもコロナの感染者が少なくなり、それに伴い、学校の教育活動も平常に近づき、今までできなかった学年間の交流や校庭での全校朝会を行っています。先日、研修会で「コロナ禍におけるこどもたちの心とからだ」(成育医療研究センター コロナ×こども本部)について話を伺いました。コロナ禍でこどもたちの生活も大きく変わったそうです。その例として、「小学校高学年以上の3割に就寝時刻の遅れや乱れ」が見られ、「4割以上のこどもたちはスクリーンタイム(ICTなどの画面を見る時間)が、一時間以上増加」し、「約半数が先生や大人に話しかけにくくなった」と感じていて、「7割超のこどもが何らかのストレス症状を抱えている」そうです。こどもたちは、このような状況で言葉や行動でSOSのサインを出し、中にはストレスで体調を崩す子も多いそうです。こどもたちのSOSのサインを感じたら、周りの大人が真剣に話を聞き、相談に乗ることが大切です。学校や地域・家庭が連携して、子供を見守ることも重要です。半数以上の御家庭で、親子で過ごす時間が増加しているそうですので、御家庭でもお話をゆっくり聞く時間を作っていただくとともに、学校でも児童の話の聞き変化や様子を見守り、協力して児童を見守っていきましょう。

さて、コロナ禍の中での開四小の学校生活は、どうでしょうか。先日、練馬区教育委員会の方が、開四小の子供たちの様子や学校生活を見にいらっしゃいました。一日、各クラスの授業を見て頂き、5時間目には5年3組の研究授業にも参加していただきました。国語の俳句作りの学習で、友達に作った俳句を紹介し、発表を聞いた友達も感想や考えを伝え合い、更に自分の俳句を推敲し、俳句を作り上げるという活動でした。授業の中で気持ちや考えを伝えようという意欲が高まり、5年生の児童の発想の素晴らしさと豊かな感性が感じられた一時間でした。最後に教育委員会の方に御指導をいただいた中で、開四小の子供たちの良さについて触れていただきました。「挨拶がとても素晴らしい」「意欲的に児童が学んでいる」「互いに認め合っている姿が素晴らしい」と、たくさんのいいところを認めていただきました。コロナ禍でも開四小の子供たちは、主体的に考え、様々な人と対話し、問題を解決しようとしています。

まだまだ、子供たちにとっても制限があり、我慢しなければいけない場面もありますが、開四小の子供たちの良さをさらに伸ばすように、学校でも知恵を出し合いながら工夫をし、互いに学び高め合うことができるような指導を行ってまいります。12月は、2学期のまとめの時期です。4月からの成長を振り返り、来年の目標を立てていきましょう。